

ペルー ハサミ踊りの民族誌

SASAKI, Naomi / 佐々木, 直美

(出版者 / Publisher)

法政大学言語・文化センター

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

Journal for Research in Languages and Cultures / 言語と文化

(巻 / Volume)

20

(開始ページ / Start Page)

43

(終了ページ / End Page)

57

(発行年 / Year)

2023-01-27

(URL)

<https://doi.org/10.15002/00026722>

ペルー ハサミ踊りの民族誌

佐々木直美

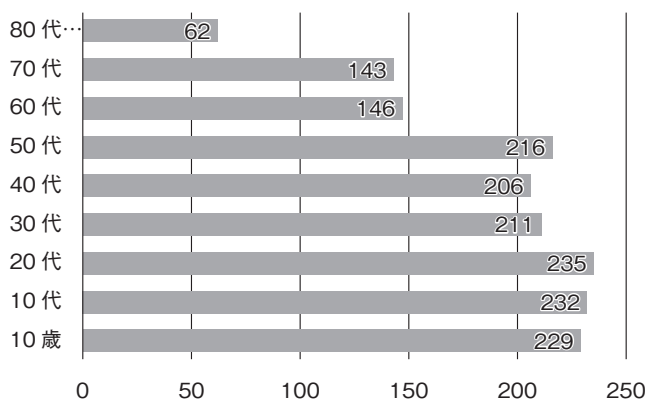
はじめに

2010年にユネスコによって無形文化遺産に登録されたペルーの「ハサミ踊り」は、その派手な出で立ちとアクロバティックなパフォーマンスに加え、アンデスの精霊と結びついた神秘的イメージによって、先住民の文化的抵抗という言説と相性がよい⁽¹⁾。かつてペルー国内では公序良俗に反するものとして禁止され⁽²⁾、アンデスの信仰とは無縁の人々から忌み嫌われた歴史から一転して、近年ではペルー文化の固有性をアピールするナショナル・アイコンとして国内大手企業のCMやペルー観光庁のプロモーションビデオに華々しく登場するようになった。ハサミ踊りが非アンデスの世界観からの抑圧にもかかわらず逞しく生き延びたのであれば、それは何故だろうか。何故、人々はハサミ踊りの伝統を守ってきたのか。ペルーを代表する現代作家ホセ・マリア・アルゲダスが小説『ラス・ニティの最期』で描いたように、ハサミ踊り手がアンデスの精霊を体現するのだとしたら、踊りからアンデスの世界観を窺い知ることができるだろうか。ハサミ踊りに関する研究は増えてきたが、民族誌的研究は不足していることが指摘されている⁽³⁾。踊りと音楽のレパートリー、踊り手の衣装、踊り手たちが継承する精神性など、ハサミ踊りとはどのようなものであるかについては、その起源も含めて繰り返し論じられている。しかし、ハサミ踊りはなぜその祭りに欠かせないのか、についてはほとんど問題視されていない。本稿はハサミ踊りに関する民族誌的資料を補いながら、祭りのコンテキストの中でハサミ踊りが「不可欠」とされる今日的意味を考察する。

I. 水の祭りとはサミ踊り

(1) アンダマルカの地理と生業

アンダマルカは、アヤクチョ県ルカナス郡カルメン・サルセド地区に属する村である。首都リマからは、およそ 700 km の全行程を車で移動可能である。アンデスの村のなかには、まだ自動車道が整備されておらず、村に入るには馬やラバあるいは徒歩で行くしかない場所もあるため、舗装道路ではなくても車道が通じていることは有り難い。首都リマを出発し、しばらくは海岸沿いにパンアメリカンハイウェイを南下する。地上絵で有名なナスカからは東に方向を変え、アンデスを徐々に登っていく。中央アンデス高地のハブ・シティであるプキオを経由し、さらに車で 3 時間、リマ出発からすると 11~14 時間ほどかけてアンダマルカに到着する。ナスカからプキオの間には、パンパ・ガレーラ国立自然保護区が広がっており、最高級の獣毛を持つとして珍重されているビクーニャに車窓から出会うこともしばしばある。アンダマルカは標高 3,459 メートルの場所に位置し、アンデス高地の生態環境区分では「ケチュア帯」にあたる。ケチュア帯は谷間にある比較的温暖な地であり、斜面を利用したトゥモロコシ栽培が盛んである。アンダマルカもまた段々畑の美しさを誇る。人口



(グラフ1) アンダマルカ 年代別人口構成

は直近の国勢調査によると1,681名であり（グラフ1）、14歳以上の就労別にみると、57%（569人）が農業従事者、そのつぎに多いのは自動車販売・修理が9%（92人）、小売業8%（84人）とつづく⁽⁴⁾。

(2) 水の祭り

アンダマルカの水の祭りは先スペイン期まで遡るとされる。しかし、ハサミ踊りがいつから係わるようになったかについては、ハサミ踊りの起源それ自体が不確かなために明らかではない。水の祭りは、農作に不可欠な「水」への感謝を込めた豊穡祈願の祭りであり、ハサミ踊りの一団以外にも様々な役割を持つ登場人物たちが同時進行で祭りを作り上げる。アンダマルカは村の南東から流れ込むネグロマヨ川と南東から流れてくるビスカ川（この川はアンダマルカの手前でネグロマヨ川に合流する）を水源とした農耕を行っている（地図1）。

ここでは、アンダマルカについて充実した民族誌を記したオシオ〔Osio：1992〕による研究に依拠しつつ、筆者が2002年⁽⁵⁾と2010年にフィールドワークした成果を踏まえながら「水の祭り」におけるハサミ踊りの意義について考察する。なお2010年の調査において筆者は、ゲストのハサミ踊り手として祭



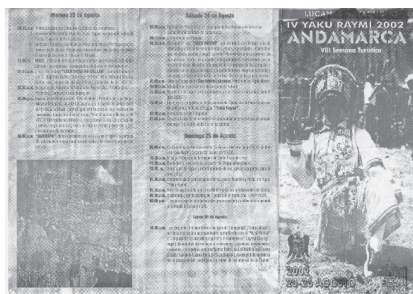
（地図1）アヤクチョ県ルカナス郡カルメン・サルセド地区アンダマルカ
「・」は人口居住地を示す。〔ペルー国土地理院の地図をもとに筆者が加工した〕

りに係わる貴重な機会を与えられ、踊り手たちの間で交わされる特有のコミュニケーションを垣間見ることができた。その体験によってハサミ踊りとアンデスの世界観を理解するためにはケチュア語を理解する必要があることを強く認識させられたことを正直に告白する。

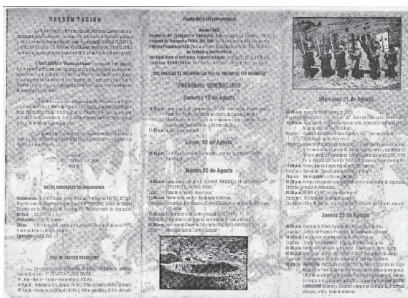
アンダマルカにおける水の祭りは、8月23日から8月25日が最大の見せ場を含む中日とされ、ハサミ踊りが関係するのはこの前後の22日から26日である。祭りは観光資源としての活用が促進されている。スポーツ大会や農産品・地元名物の市が開催され、近年ではケチュア語で「水の祭り」を意味する「ヤク・ライミ (Yaku Raymi)」との呼び方が積極的に宣伝されている。観光客向けのパンフレットも作成されるようになった(資料1-1, 1-2)。祭りの時期には、村からリマや外国に移住した村人やその家族が多数帰省するが、それ以外の「よそ者」も訪れるようになった。たとえば2002年には筆者以外に外国人(フランス人)数名が祭り観光に訪れており、「外国人客」の存在が誇らしくマイクでアナウンスされた。2010年には筆者以外にアメリカとコロンビアからの訪問者もいた。

祭り開催に先立ち、村では「水」にまつわる儀礼が8月2日から始まる。アンデスの人々は8月から9月初旬は「大地が飢えている」と表現する。アンデス高地では乾期から雨期へと移行するこの時期、命あるものにとっては危険で不安な時期として捉え、大地の霊力を回復するために農民たちは儀礼を行う[友枝1997]。

祭りの内容は、宗教的イベント(聖行列、水の祝福)、共同作業(灌漑設備の清掃、共食)、娯楽(仮装、踊り、泥の塗り合いなど)からなると言えるが、



(資料1-1) パンフレット(表)



(資料1-2) パンフレット(裏)

互いはそれぞれ関係しあっており、多くの出来事や振る舞いは共同体の豊饒と統合に結びついていると解釈できる。特に共同体の統合という点においては、以前は共同体の二つの地区の若者たちがアイラ (ayla)⁽⁶⁾ と呼ばれる踊りと歌を競い合うことで示されていたが、現在ではハサミ踊りの競い合いに取って代わった、とのオシオの記述は水の祭りにおけるハサミ踊りの意義を理解するうえで重要な指摘である [Ossio 1992 : 330]。

アングマルカは別名「ハサミ踊りのゆりかご」とも称される。伝統的に人気の踊り手を輩出し、くわえて村の人々もハサミ踊りへの期待がことさら高いことで知られている。共同体は二本の川、つまり西側のネグロマヨ川と東側のビスカ川を水源としているが、灌漑に利用するこの二つの川をアイデンティティとして村内も二つのグループに分かれて祭りと儀礼を執り行う。したがって水の祭り全般にわたって、この双分割は大きな意味をもつ。ネグロマヨ川の西軍、ビスカ川の東軍の二手が祭りの運営において分担し、競い合いながらも最後には共同体全体の統合を示すかたちで催行される。両軍による具体的な祭りの流れをオシオの研究と2002年作成の水の祭りパンフレット(資料1-1, 1-2)の記載内容を参考にしながら、2002年と2010年の筆者の調査で確認できたことを示す(表1)。

灌漑用水路清掃に関するイベント(表1)

日時	内容	場所	担当
8月 2日	「大地が開く」と表現される		
8日	水の放出		西軍の水番
14日	サンタ・ロサとブラハの幼子イエスによる水への奉納開始	ビスカ用水の源 (supaymayo)	東軍
15日	絶えざる御助けの聖母が先の2つの聖像に加わって奉納	ビスカ用水	東軍
16日	処女懐胎のマリア像による奉納		西軍
17日	聖十字架ネグロマヨへの奉納 諸王の王幼子イエスによる奉納	貯水池 (Huayllura)	西軍
18日	ネグロマヨ用水への奉仕 サン・フランシスコによる奉納 精霊による奉納	ネグロマヨ用水	ネグロマヨの新水番
		貯水池 (chitjansa)	西軍
19日	聖カルメンによる奉納 聖体顕示台とサン・ホセによる奉納	ネグロマヨ用水 オルホ用水の源	東軍

20日	サン・ペドロが先の2つの聖像に加わって奉納	マタラ貯水池 Matara Qocha	東軍
21日 パンパ 10:30p.m.	復活の主による奉納 受肉の聖母による奉納 トロ・ベライ	トトラ アウカトゥンコ 闘牛場	西軍
22日	聖イシドロによる奉納 痛みの聖母による奉納	クルワ、ヤナコチャ ムリヤカタ 闘牛場	西軍
23日 前夜	三位一体像による奉納 被昇天の主と聖十字架による奉納	ヒルイチャ湖 ヤルプコチャ湖	東軍 西軍
24日	農夫聖イシドロの祭り トトラ湖の祝福	村中心地	西軍
25日	リマの聖ロサの祭り チンパコチャ貯水池の祝福	村中心地	東軍
26日	聖フランシスコの祭り 片付け（デスパチョ）		全ての祭り 世話役

村では8月に入るとすぐに祭りに関する様々な儀式が行われていることがわかる。儀式は村の教会に祀られている聖人が水源に供物を供えたり、祝福を与えたりすることからなる。ハサミ踊りが公に祭りと係わるのは（表2）で示したとおり22日からである。

水の祭りにおけるハサミ踊りの位置づけ（表2）

日時	ハサミ踊りの内容と役割	ハサミ踊り以外の出来事
21日 4:00p.m. 10:00p.m.	マイソ宅の庭で同じチーム内での踊りの対決を行い、「第一踊り手」を決めたり、揃って踊る場面での振り付けを打ち合わせる。	トロ・ベライ
22日 2:00p.m. 8:00p.m.	ネグロマヨ側のハサミ踊り一団による前哨戦（プラサ・ガナイ Plaza Ganay）	闘牛

だが、実際には10時ころに始まり、歌と踊りは深夜まで続いた。トロ・ベライにハサミ踊り手は登場しない。踊り手役たちは、普段着のまま群衆に紛れて居合わせ、翌日からのハサミ踊り対決にそなえて酒（ケマディート⁽⁸⁾）を回し飲みしながら踊り手同士で情報交換をしていた。踊り手としての存在が祭り参列者たちに広く認識されるのは翌日22日からである。

祭りのメイン・イベントは、両軍が抱えるハサミ踊りグループ間の大決戦「グラン・アティパナクイ」⁽⁹⁾である。グラン・アティパナクイに備えて、各陣営は21日の夕刻から90分ほど続くアティパナクイ（決戦）を踊りの出資者（マイソまたはカルゴンテ／マヨルドモ）宅の庭で行う。この踊り対決は一般には公開されないが、踊り手たちは栄誉ある「第一踊り手」に選ばれるべく技を競い合う。競われるのはステップやアクロバティックな身のこなしを伴う「踊り」の部分だけであり、グラン・アティパナクイで人々を一段と興奮させる奇術や苦行のような過激な技は行われない。

この祭りにおけるハサミ踊りの構成は4つに分類することができる。

1. 行列パサ・カイエ (pasa calle)：スペイン語で「行列」を意味するしており、祭り中に共同体の中を練り歩き、四辻に来ると踊り手同士が向き合って同じステップを踏む。
2. 踊り：踊りの曲は多数あるが、グラン・アティパナクイの構成としては、次の5つが必ず入る⁽¹⁰⁾。①アルト・エンサヨ (alto ensayo)：高いジャンプを伴う踊り。②パンパ・エンサヨ (pampa ensayo)：地面と胴体または頭が接した状態で披露する技。③パタラ (patara)：バレリーナのようにつま先先端で体を支えながら披露する技。④サパテオ：複雑で軽快なステップの絶妙さを競う。⑤ワルパ・ワハイ (wallpa waqay)：夜明けを告げる鶏の鳴き声が聞こえるころに踊る。
3. コミカルな演技：ワマンギーノ (huamanguino ワマンガ人)：商人として有名なアヤクチョ県ワマンガの人を模して、滑稽な仕草をしたり、表情をしたりして笑わせる。パヤソ (payaso ピエロ)：観衆にちょっかいを出したり、女装したりして笑わせる。
4. 奇術・苦行的演技：試練 (prueba プルエーバ)、パスタ (pasta)、鐘楼下り (トーレ・バハイ)⁽¹¹⁾：教会鐘楼から広場の木へと下ろし張った綱を降りてくる危険な技。

5. 別れ karamuza : 踊り対決が終了し、ハサミ踊りの一行が村から離れることを意味する場面。踊り手はハサミを鳴らすが、ハサミ踊りの象徴である帽子を被ることも複雑なステップを踏むこともない。マイソを先導して、村人たちを巻き込んで大きな人の輪を作り、リズムに合わせながら歩く。

前哨戦で披露されるのは、上の区分でいえば「2」の部分である。

22日、西側のヤルポ湖、東側のヒルチャ湖畔でそれぞれ供物を捧げて儀礼を行ってきた者たちは、その証しに湖の泥を顔に塗って帰ってくる。湖の泥を持ち帰る役目のことを「ウリュスチャ (ulluscha)」と呼び、ハサミ踊りに先導されてマイソたちと大勢の参列者がウリュスチャを村の入り口まで出迎えに行く。この瞬間から祭りの賑わいが一層増す。というのは、ウリュスチャは、小さなバケツに泥を入れて持ち帰って来ており、手当たり次第に村中の人々の顔に塗りつけて遊ぶのが役目だからである。塗られる方もそれをなかば当然としながらも、やはりヘドロのような泥を顔や服に塗られるのは避けたい思いで、まさに蜘蛛の子を散らしたような騒ぎとなる。ハサミ踊り手一行も無事ではない。湖の泥は、その場に居合わせる人皆に共有される⁽¹²⁾。

その夕刻から、いよいよハサミ踊りが祭りの主役となる。22日と23日は「前哨戦」と呼ばれ、夕方から深夜にかけて踊りと演奏を村の中心広場で披露する。アンダマルカでは、東・西各軍が2~4人の踊り手を抱えて、対戦に挑む。それぞれの踊り手の技量を吟味し、お気に入りの踊り手を見つけて祭り中応援するのが村人たちの楽しみである。

24日には農業の守護神とされる農夫聖インドロのミサが、25日には聖ロサのミサが午前中に執り行われる。アンデスの信仰を体現するとされるハサミ踊り手は、衣装のまま教会に入ることを許されていないためミサの間は教会の外で楽師たちと休憩する。教会との関係についてアンダマルカ出身でリマに15年以上居住する経験豊かな踊り手の一人チノ・デ・アンダマルカ（当時30代）は次のように述べた。

村の習慣によっては、踊り手も教会に入ったり聖像を担いだりすることもある。でも、古い踊り手はそれには反対している。なぜなら、踊り手はアンデスの信仰の強さを示しているからだ。教会に挨拶するのは、カト

リック信者であるカルゴンテたちへの敬意を示しているのさ。とは言え、最近ではカトリックとアンデスの信仰はますます併存しているよ。カトリックもアンデスの信仰と似たようなことをやっているからね。(チノ・デ・アンダマルカ 2002年8月25日聞き取り)

24日のミサと聖イシドロの聖体行列が終わると、トトラ貯水池（ネグロ川・西軍）とチンパ貯水池（ビスカ川・東軍）において、水とつぎの作付けに使われる種への祝福がカトリック司祭によって与えられる。翌年の祭りマイソを含む祭りの世話役が決定・公表され、貯水池での重要な儀式が終わる。

正午からは祭りの最大の見所とされる「ハサミ踊り決戦」が始まる。ハサミ踊り手と楽士は彼らの世話係「カパタス」とともに「決戦」に挑む。舞台となる中央広場の両サイドに踊り手一行が陣取って、闘志をみなぎらせている様子は、リングサイドに控えるボクサーとセコンドのようである。ハサミ踊りは、文字通りの踊りだけではなく、人間業を超えた大変危険な技の対決も含むため正に「格闘技」である。祭り参列者たちは格闘技を観戦する観客さながらに、お気に入りの踊り手に声援をおくったり、ライバルの踊り手を挑発したりヤジを飛ばしてこの対戦に参加するのである。25日もほぼ同様のスケジュールでミサと聖体行列、貯水池におけるカトリック司祭による祝福と次年度の世話役決定のあと、ハサミ踊り決戦という流れで進行する。前日との違いは、25日にこのお祭り騒ぎは幕を閉じるということである。夜7時ころにハサミ踊りの大技の一つ「鐘楼下り」がハサミ踊りのフィナーレを飾る。教会の鐘楼の頂上から中心広場の木に渡された一本の綱を踊り手が降りてくる。綱を跨ってくるか、首または足首を吊りながら降りてくる大変危険な技である。みなぎ息を殺して緊張を分かち合うなか、踊り手が綱の端まで降り終えると、祭りの興奮は一気に爆発する。決死の大技を決めた両陣営の踊り手は英雄のように担がれてそれぞれは自分たちこそが勝者であることを確信する。この瞬間は、祭りのあいだ強調されていた共同体内の「対立」が弱まり「統合」が意識される重要な歓喜の瞬間である。そのあとバイオリンとアルパによって別れの曲「カラムサ」の演奏が始まり踊り手は再びハサミを打ち鳴らすと、人々を巻き込んで踊りの輪ができる。両軍で大きな人の輪ができ、中心広場いっぱい踊りの輪が広がる。カラムサの演奏が終わるとハサミ踊り手の役目はほぼ終了となる。

II. 儀礼的文脈において使用されるスペイン語とケチュア語の混在

踊りの曲目や衣装の名称さらには踊り手の芸名において、ケチュア語とスペイン語が混在して用いられる。混在の仕方は次の三通りある。

①スペイン語のみを使用する場合

例 演目の一つ「アルト・エンサヨ (alto ensayo)」は、スペイン語で「高い」を表す「alto」と「試み・練習」を表す「ensayo」の組み合わせである。

②スペイン語とケチュア語を組み合わせた場合

例 演目の一つ「パンパ・エンサヨ (pampa ensayo)」はケチュア語の「平坦で開放的な場所」を表す「パンパ (pampa)」と上述のスペイン語「エンサヨ」が組み合わせられている⁽¹³⁾。

③ケチュア語のみの場合

例 演目のひとつ「ワルパ・ワハイ (Wallpa Waqay)」はケチュア語で「雄鶏の鳴き声」を意味する。

ハサミ踊りが盛んなアヤクチョ・ワンカベリカ・アプリマック地域の農牧民の生活言語はケチュア語であるため、当地の信仰を基盤にするハサミ踊りにおいてケチュア語が多用されるのは自然なのかもしれない。アンデスの牧民が繁殖儀礼の際に歌う歌詞、つまり非日常世界を表す言語について分析した友枝は、その詩的言語における特徴として、いくつかの日常語彙の使用禁止、縮小辞と限定辞の濫用、動詞人称の限定、詩的機能の増大とならんでスペイン語の濫用を指摘し、その効果について「…ケチュア語を日常語とする人々には、その日常語のあきらかさを超えた表現としての効果を保つといえるであろう。いわば外国語が詩的表現のために積極的に採用されている。」と述べている〔友枝 1997: 118〕。ハサミ踊り手は、パフォーマンスの最中に公に声を発することはない。競い合う相手や聴衆にはむしろ声を聞かせないようにしており、どうしても必要なときは相手に耳打ちしたり、世話係であるカパタスを通じて意思を伝えたりする。他方でハサミ踊り手と楽士たちとの会話を注意深く聞いていると大変興味深い特徴に気づく。踊り手たちは、祭りでのパフォーマンスを「経済活動」になぞらえているかのようにスペイン語の単語を使っているのである (表 3)。22 日と 23 日に行うグラン・アティパナクイの前哨戦をスペイン

語で「先に行くこと」や「予告」を意味する「アンティシパ *anticipa*」と呼ぶ場合がある。この単語は「前払いをする」という意味でもある。また、祭りの開始前に踊り手と楽士はパフォーマンスの成功を祈願して広場の一角で密かに儀礼を行うが、その儀礼を「支払い（パガパ *pagapa*／パガプ *pagapu*）」と呼ぶ。踊り手や楽師たちの超人的な技の源をアンデスの精霊の力に認め、さらに権力への抵抗性と神秘性を誇示する「悪魔との契約」という言説が常套句化している。踊り手は命と引き換えに超人技を授かる「契約」を結ぶとも言われる。ケチュア語語彙辞典が編纂されたのは16世紀修道士サント・トマスによるが、つづく17世紀に編纂されたケチュア語辞書もふくめて「契約 *pacto*」の項目は見当たらない。他方でスペイン語の「約束 *promesa*」に相当するケチュア語「*simin ñisca*」は記載されている点は、ハサミ踊り手たちとアンデスの精霊の関係、そして植民地期の社会・経済状況のなかで先住民がカトリック布教をどのように受けとめたかを考察するうえで示唆的であることを指摘したい⁽¹⁴⁾。

ハサミ踊り手を使う「経済活動」に関するスペイン語（表3）⁽¹⁵⁾

原語 ⁽¹⁶⁾	文脈内での意味	斜体部分のもとの意味 ⁽¹⁷⁾
<i>anticipa</i> (<i>anticipar</i>)	前哨戦	1. (予定・時期を) 繰り上げる, 早く(先に) 行う 2. 前払いをする, 前貸しする 3. 予告する 4. 予測する
<i>comprar</i> de la torre de la plaza plaza torre <i>rantiy</i> ⁽¹⁸⁾	広場の塔の厚意を得る	1. 買う, 購入する 2. (人)を買収する, 賄賂を贈る
<i>ganar</i> la plaza plaza <i>ganay</i>	広場の厚意を得る	手に入れる, 獲得する, 稼ぐ
<i>pagapu</i> <i>pagar</i> la plaza	供え物 広場に供え物をする	支払い 1. 支払う 2. 代償を払う 3. 報いる, 応える
<i>pacto</i> con el diablo ⁽¹⁹⁾	悪魔との契約	契約

おわりに

本稿では、アンダマルカを事例に水の祭りにおけるハサミ踊りの民族誌的記述からハサミ踊りの役割について考察を試みた。それによって確認できたことは、ハサミ踊りが村の「対立」と「統合」を象徴するということである。また、ハサミ踊りのコンテキストにおけるケチュア語とスペイン語の使われかたの特徴は指摘できたが、詳細に論じることはできなかった。この点はカラムサで時に踊り手が即興的に歌うケチュア語での歌詞の分析も含めて行うことで、アンデスの人々が受け継ぎ、伝え残そうとしているものとハサミ踊りの今日的意義についてさらに研究を進めることを今後の課題としたい。

参考文献

- Arce SoteloManuel. (2006). La danza de tijeras y el violín de Lucanas. Lima: IFEA, PUCP.
- Carrasco, Ranulfo Caverro. (1998). Los danzantes de tijeras en la fiesta del Corpus Christi. *Senri Ethnological Reports* Vol.9, pp. 119-128.
- Gonzales HolguinDiego. (1989 [1607]). Vocabulario de la lengua general de todo el Perú llamada lengua quechua o del Inca. Lima: UMSA.
- Montoya Rojas, R. (2007) El buen danzante de tijeras recoge agua con una canasta. *Investigaciones Sociales*, pp.15-54.
- _____. (2010). *Porvenir de la cultura quechua en Perú: Desde Lima, Villa El Salvador y Puquio*. UNAM.
- Ossio, J. M. (1992) Parentesco, Reciprocidad y Jerarquía en los Andes. PUCDP.
- Real Academia Española (2021 更新) Diccionario de la lengua española.
- Santo TomásDomingo de (1560) Lexicon, o Vocabulario de la lengua general del Perú.
参照日：2022年10月11日、参照先：Biblioteca Virtual de Ministerio de la Cultura: <https://repositorio.cultura.gob.pe/handle/CULTURA/226>
- UNESCO. (2010). La danza de las tijeras. Nomination file 00391, ページ： <https://ich.unesco.org/es/RL/la-danza-de-las-tijeras-00391>.
- 青木芳夫, アンヘリカ・パロミーノ・青木 (1992) 「ケチュア語の接辞」 奈良大学紀要 第20号, 89-105.
- アルゲダスホセ・マリア (2005) 『ダイヤモンドと火打ち石』 杉山晃訳, 彩流社.
- 桑名一博 (編) (1990) 小学館『西和中辞典』 小学館.
- 佐々木直美 (2018) 「ペルー無形文化遺産〈ハサミ踊り〉に関する歴史的考察」 言語と文化 第15号, pp.55-70.
- 友枝啓泰 (1997) 「アンデスの繁殖儀礼」：友枝啓泰・染田秀藤『アンデス文化を学ぶ人

のために』世界思想社。

《注》

- (1) ハサミ踊りの起源を16世紀に生じたとされる先住民の「千年王国運動」タキ・オンコイに関連付ける考えはその一つであろう。しかし、そのような考えは大いに議論が分かれるところである。ハサミ踊に関する歴史的資料については拙稿を参照[佐々木2018]。
- (2) 「神を冒瀆する悪と憎悪の温床である」として再三にわたって禁止してきたにもかかわらず、1800年になっても根絶できなかつたとの記録がある。[Montoya 2007: 19]
- (3) [Montoya 2010: 225]
- (4) 2017年度国勢調査 (INEI)。
- (5) 2002年の調査の際は、ハサミ踊りの一行と共にリマを出発し、アンダマルカに向かった。8月19日、リマ市郊外のサン・ファンから夕方5時発の長距離バスでアヤクチョ県プキオに翌朝早朝5時に到着した。30分後の5時半にアンダマルカ行きのワゴン車に乗り換え、8月20日の8時30分に目的地に到着した。
- (6) アイラは競い合いのかたちではないが、現在もアンダマルカの水の祭りで踊られている。J.M. アルゲダスの作品に短編小説「アイラの舞 (II)」がある [アルゲダス, 2005]。
- (7) アンダマルカの水の祭りにおける「ニャウイン」とは、最近結婚した男性が最初に担当する役割を指す。主な仕事は水の判事の補佐と祭りの登場人物への出資である。[Ossio 1992: 319] また、祭りのパンフレットによると、ニャウインは灌漑施設清掃の灌漑用水の責任者でもある。
- (8) ピスコ (ブドウから作られる蒸留酒) やカニヤソ (サトウキビから作られる蒸留酒) をベースにレモンの皮やハーブで香り付けした甘味を加えたアルコール飲料。
- (9) アティパナクイ atipanakuy はケチュア語で「争う」の意味
- (10) ハサミ踊りの音楽的レパートリーとその分析に関してはアルセの研究が示唆に富む [Arce 2006]。
- (11) 祭りのパンフレットには「トーレ・セハイ torre seqay」(鐘楼登り) との記述があるが、本稿では踊り手たちが一般的に使う呼び方「鐘楼下り (トーレ・バハイ)」と記す。ハサミ踊りの音楽について詳細に分析したアルセも「torre bajay」と記している [Arce 2006]。
- (12) 祭り中はウリュスチャの泥以外にも、高地に繁殖するイネ科の植物「イチユichu」と谷に生えるシダ類「ラキラキ」を両陣営が参列者に配ったり、トウモロコシの発酵酒「チチャ」やその他の酒が振舞われたりして共有される。
- (13) ただし、「パンパ」はケチュア語起源の語彙としてスペイン語に取り入れられている。スペイン王立アカデミー編纂 西辞典 <https://www.rae.es/>
- (14) [Gonzales 1989]
- (15) 下線部はケチュア語あるいはケチュア語化されたスペイン語
- (16) 「rantiy」はケチュア語で「買う」の意。「-pu」は誰かのために行う行為に付く接辞 [青木1992, 97]。

- (17) 小学館西和中辞典 [1990]
- (18) [Carrasco 1998 : 123]
- (19) [UNESCO, 2010]

(ラテンアメリカ研究・文化人類学／国際文化学部教授)